

令和 5 年 6 月 9 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K01205

研究課題名(和文) 地域精神医療における認知症と「自己参加型医療」：医療人類学的分析

研究課題名(英文) Dementia in Community Psychiatry and "Self-Participatory" Medicine: A Medical Anthropological Perspective

研究代表者

北中 淳子(Kitanaka, Junko)

慶應義塾大学・文学部(三田)・教授

研究者番号：20383945

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：超高齢化が進み、人々が人生のあらゆる時期において脳神経的障害の可能性を意識しながら生き始めている日本においては「ライフサイクルの精神医療化」とでも呼べる状況が進行している。人生の節目節目において発達障害、うつ病、認知症といった病の可能性を視野に入れ、身体のみならず、心や脳の健康を維持・向上させることが自然となりつつある。そのような状況下、精神医学のケアが病院から地域へと移行する過程で隆盛した「新健康主義」に着目し、特に認知症や発達障害の当事者運動が心や脳をどう語り始めているのかを分析することで、「脳神経科学的共感」と名付けたあらたな共感の可能性について論じた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、国内外の一流雑誌を含めた英語・日本語雑誌論文17本、学会発表44(国際学会15)、図書5の成果と、カリフォルニア大学バークレー校やエジンバラ大学、ウェルカム財団での招聘講演や、医療の社会科学的研究を先導してきた学者チームとの国際連携にもつながった。英語論文の中でも特に、「脳神経科学的共感(neurobiological empathy)」を論じたアメリカ医療人類学会誌掲載の論文はスペイン語に訳され、ライフサイクルの精神医療化とデータヘルスの関係を分析した英語論文はPsychiatric Epidemiologyに関する論文集に発表されている。

研究成果の概要(英文)：In Japan, where the population is super-aging and people are beginning to live with an awareness of the possibility of neurological disorders at every stage of their lives, this research has investigated the rise of what could be called the "psychiatricization of the life cycle." Aware of such disease categories as developmental disorders, depression, and dementia, people are becoming more and more aware of the need to maintain and improve not only their physical health but also their mental and cerebral health at every stage of their lives. By focusing on the "new healthism" that is arising at the time when psychiatric care is shifting from the hospital to the community, I have analyzed how people with psychiatric disorders are beginning to talk about themselves and to each other about the health of the mind and the brain. I argue that through this process, there is emerging a new form of empathy, or what we might call "neurobiological empathy."

研究分野：医療人類学

キーワード：医療人類学 精神医学 認知症 うつ病 脳 神経 古い 新健康主義

2023年科研報告書 「地域精神医療における認知症と『自己参加型医療』:医療人類学的分析」 慶應義塾大学 北中淳子

1. 研究開始当初の背景

2000年代以降の日本においては、人口の急速な老化と、とくに認知症をはじめとした脳神経科学的障害への関心が高まり、「病院から地域へ」の掛け声の下、地域精神医療の影響も一気に拡大した。本研究では、脳神経の障害に関する知識が広まる一方で、老いのスティグマ化への懸念も根強いことに注目し、この医療化が地域においてどのような健康観・人間観を生み出すのかを問うものであった。

2. 研究の目的

コロナ禍により予定されていた医療現場でのフィールドワークやインタビューが困難となる中で、当初の狭義の老いの医療化が引き起こす葛藤や新たな展望という問題意識から、より広く、発達障害やうつ病も含め、人々の人生全体に及ぶ「ライフサイクルの精神医療化」と名付けた現象に着目し、その過程で、どのように新たな心や脳の健康のケアが生まれつつあるのかの探究へとシフトした。同時に、精神医療の軸足が地域に移行する中で世界的に台頭した当事者運動にも着目し、当事者視点を反映させた精神医療、いわば「自己参加型医療」の構築が日本のみならずグローバルにどのように可能になるのかを明らかにすることを目指した。

3. 研究の方法

医療現場でのフィールドワークを主軸として計画されていた調査デザインについては、コロナ禍により大幅な変更が必要となった。そのため、引き続きできる限り臨床現場にアクセスし、zoom 等も用いた医療者とのインタビューや参与観察を行うと同時に、文献調査で地域精神医療と医療化について調査を行い、世界各国の医師や医療研究者が集まる Global Social Medicine のチームとの国際会議や発表を行い、地域精神医療の台頭と、コロナ禍での変化についても同時進行での分析を行い、日本の当事者運動を牽引している当事者・医療者・研究者の複数の団体での調査を重ねることで、「ライフサイクルの精神医療化」がもたらした変化について考察を行った。

4. 研究成果

本研究は、国内外の一流雑誌を含めた英語・日本語雑誌論文17本、学会発表44(国際学会 15, 招待講演 38)、図書5の成果と、カリフォルニア大学バークレー校やエジンバラ大学、ウェルカム財団での招聘講演や、医療の社会科学研究を先導してきた学者チームとの国際連携にもつながった。本研究で得たもっとも重要な知見としては、日本においてもこの20年間程で発達障害・うつ病・認知症といった人

生の節目節目で心と脳の健康について人々が自らを振り返るライフサイクルの精神医療化が深く浸透しつつある状況を人類学的に描き出したことにある。特にそこで着目したのは「新健康主義 (new healthism)」と名付けた脳の健康に関してうまれつつある新たな意識である。従来の欧米の医療研究においては、このような脳偏重主義の健康観がもたらすのは、人間観の貧困化と専門家支配であるとして批判的に論じられてきた。それに対して日本の、特に当事者運動の隆盛の中でうまれつつあるのは、まったく異なる文化であった。それは、脳の変調を意識し、その障害をより身体的・親密な言葉で言語化していくことによって、これまで不可解で疎外的な現象として語られていたで精神障害をより身近な経験として捉え直す動きをもたらすと同時に、そのような変調を経験する他の当事者との、従来の疾病カテゴリーを超えた連帯を生み出している。このあらたな連帯の可能性を「脳神経科学的共感 (neurobiological empathy)」として論じた、アメリカ医療人類学会機関誌掲載の論文はスペイン語に訳され、脳神経科学についての論考を集めた南米の研究者たち中心の論集にも掲載された。さらに、老いに注目し、日本におけるライフサイクルの精神医療化とデータヘルスの関係を自己参加型医療の観点から分析した英語論文は *Psychiatric Epidemiology* に関する論文集に発表されている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計17件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 6件）

1. 著者名 Kitanaka, J., Ecks, S. & Wu, H. Y. J	4. 巻 398, 10304
2. 論文標題 The social in psychiatries: depression in Myanmar, China, and Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Lancet.	6. 最初と最後の頁 948-949
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/S0140-6736(21)00999-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Michelle Pentecost, Vincanne Adams, Rama Baru, Carlo Caduff, Jeremy A Greene, Helena Hansen, David S Jones, Junko Kitanaka, Francisco Ortega	4. 巻 398, 10300
2. 論文標題 Revitalising global social medicine	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Lancet.	6. 最初と最後の頁 573-574
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/S0140-6736(21)01003-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する
1. 著者名 Junko Kitanaka	4. 巻 57(3)
2. 論文標題 Limits of empathy: The dementia Tojisha movement in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of the History of the Behavioral Sciences	6. 最初と最後の頁 266-272
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/jhbs.22098	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 北中淳子	4. 巻 63 (7)
2. 論文標題 特集 自殺の現状と予防対策-COVID-19の影響も含めて 自殺の医療人類学-生きづらさへの文化的視点	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 精神医学	6. 最初と最後の頁 1063-1072
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11477/mf.1405206404	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北中淳子	4. 巻 220
2. 論文標題 嫌悪の医療人類学 (嫌悪 : ネガティブな感情はなぜ生じるのか) -- (嫌悪とは何か)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 こころの科学	6. 最初と最後の頁 16-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北中 淳子, 黒木 俊秀	4. 巻 22(1)
2. 論文標題 対談 心の病名と精神医学をめぐる対話 (特集 心の病名を問う : 臨床における効用と限界)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 臨床心理学	6. 最初と最後の頁 8-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Junko Kitataka	4. 巻 6
2. 論文標題 Peer Review Report For: Critical qualitative research on 'madness': knowledge making and activism among those designated 'mad'	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Wellcome Open Research	6. 最初と最後の頁 98-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 北中 淳子, 福田 正知, 山下 研	4. 巻 13
2. 論文標題 INTERVIEW 蔓延するうつ病と精神医療の現在 (鬱の時代へ : 失調と回復の哲学)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 エクリヲ	6. 最初と最後の頁 8-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 狩野 祐人, 北中 淳子	4. 巻 50 (9)
2. 論文標題 当事者視点の精神医学知：医療人類学的考察 (特集 ライフコース全体で考えるメンタルヘルス) -- (ライフコースアプローチをマルチステークホルダーの視点に生かして)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 臨床精神医学	6. 最初と最後の頁 963-968
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Junko Kitanaoka & Stefan Ecks	4. 巻 -
2. 論文標題 Depression	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Cambridge Encyclopedia of Anthropology	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Junko Kitanaoka	4. 巻 34(1)
2. 論文標題 In the Mind of Dementia: Neurobiological Empathy, Incommensurability, and the Dementia Tojisha Movement in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Medical Anthropology Quarterly	6. 最初と最後の頁 119-135
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 北中淳子	4. 巻 48(12)
2. 論文標題 生き生きとしたデータ：戦後地域医療と健康	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 現代思想 (特集 統計学/データサイエンス)	6. 最初と最後の頁 140-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北中淳子	4. 巻 25(3)
2. 論文標題 認知症のイメージを耕す：共感の医療人類学	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 最新精神医学 (特集 認知症医療現場の諸風景)	6. 最初と最後の頁 177-184
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北中淳子	4. 巻 49(2)
2. 論文標題 絶望のデータ化：デジタル精神医学の時代	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代思想 (特集 精神医療の最前線 コロナ時代の心のゆくえ)	6. 最初と最後の頁 36-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北中淳子	4. 巻 47(2)
2. 論文標題 患者から学ぶ：依存への怖れと憧れ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 精神療法	6. 最初と最後の頁 267-269
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Junko Kitataka	4. 巻 79
2. 論文標題 Book review The Invention of Madness by Emily Baum: Recovering Incommensurability: Theorizing Psychiatry in Asia	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Studies in History and Philosophy of Biological & Biomedical Sciences	6. 最初と最後の頁 101204-101204
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北中淳子	4. 巻 47(12)
2. 論文標題 高齢者倫理 新健康主義 : 日本での認知症予防論争をめぐって (特集 倫理学の論点23)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 151 - 160
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

[学会発表] 計36件 (うち招待講演 30件 / うち国際学会 11件)

1. 発表者名 Junko Kitana
2. 発表標題 Emerging spaces of self-reflection: Engaging with Li Zhang 's Anxious China
3. 学会等名 HKU Global Health & Humanities Book Talk Series No. 4, Anxious China: Inner Revolution and Politics of Psychotherapy (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Junko Kitana
2. 発表標題 'Cultivating Empathy: The Rise of Dementia Tojisha (user) Movement in Japan'
3. 学会等名 Dementia in Society: Reflections from the UK and Japan by the University of Edinburgh (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Junko Kitana
2. 発表標題 Limits of Empathy: Dementia Tojisha Movement in Japan
3. 学会等名 American Anthropological Association Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 北中淳子
2. 発表標題 当事者の知としての精神医学
3. 学会等名 11回 東京都医学総合研究所シンポジウム「病いは物語である」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 北中淳子
2. 発表標題 共感の技としての精神医学
3. 学会等名 統合失調症学会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Junko Kitataka
2. 発表標題 Commentator
3. 学会等名 Understanding Care and Healing Beyond the Hospital: Infrastructures, Practices, Engagements (招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Junko Kitataka
2. 発表標題 Towards Global Social Medicine:A Medical Anthropological Approach to Depression
3. 学会等名 T復旦大学学生対象「日本と中国の文化交流講座」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 北中淳子
2. 発表標題 Global Social Medicineに向けて：うつ医療人類学
3. 学会等名 慶應義塾大学医学部日吉哲学講座（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 北中淳子
2. 発表標題 医療人類学
3. 学会等名 TICPOC 文部科学省 課題解決型高度医療人材養成プログラム 「職域・地域架橋型 - 価値に基づく支援者育成」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 北中淳子
2. 発表標題 当事者視点の精神医療に向けて コメンテーター
3. 学会等名 日本精神神経学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Junko Kitanaka
2. 発表標題 New Healthism in the Dementia Prevention Movement in Japan.
3. 学会等名 Forum on Mental Health in East Asia, University of California, Berkeley. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Junko Kitanaka
2. 発表標題 New Healthism in Japan: National Debates Around the Prevention of Dementia
3. 学会等名 Imagining Future Relations: Immunity, Ecology and Disease A workshop hosted by the Centre for Biomedicine, Self and Society at the University of Edinburgh 25-26 February 2021 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 北中淳子
2. 発表標題 「共感」の人類学：当事者科学としての精神医学に向けて
3. 学会等名 精神神経学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 北中淳子
2. 発表標題 汝自身を知れ：内省の病に関する医療人類学的考察
3. 学会等名 うつ病学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 北中淳子
2. 発表標題 うつのジェンダー：医療人類学的視点
3. 学会等名 日本うつ病センター主催「女性のライフステージと女性特有のうつとの関係（招待講演）」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 北中淳子
2. 発表標題 自省性と共感の人類学：脳神経科学的自己の時代に
3. 学会等名 困難時代の包摂社会のための個体 社会相互作用 / 共同創造に基づく脳行動科学変革 C班分科会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 北中淳子
2. 発表標題 当事者視点の認知症医療とは？：医療人類学的考察
3. 学会等名 第21回認知症当事者勉強会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 北中淳子
2. 発表標題 ストレスの病？：うつ医療人類学
3. 学会等名 第8回Evidence Based Psychiatry研究会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 北中淳子
2. 発表標題 当事者の語り：医療人類学的視点
3. 学会等名 経済産業省・認知症未来共創ハブ勉強会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 北中淳子
2. 発表標題 ストレス・神経衰弱・うつ病の歴史と意義
3. 学会等名 北里大学医学部精神神経科研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 北中淳子
2. 発表標題 老い・うつ病・認知症：医療人類学的視点
3. 学会等名 女性のライフステージと女性特有のうつとの関係（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 北中淳子
2. 発表標題 共感の作法としての精神医学
3. 学会等名 東京大学医学部精神科教室PPP研究会（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Junko Kitanaka
2. 発表標題 Cultivating Empathy in the Age of Digital Surveillance in Japan: Depression from a Medical Anthropological Perspective
3. 学会等名 IMHPJ Award Ceremony（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Junko Kitanaka
2. 発表標題 New Healthism?: Dementia Prevention in Japan
3. 学会等名 American Anthropological Association Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Junko Kitanaka
2. 発表標題 Psychiatric Screening as a New Care of the Self in Japan
3. 学会等名 Past, present and future of phenomenological, interpretative and hermeneutic sociology. A symposium for a partnership between Keio University and University of Vienna (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Junko Kitanaka
2. 発表標題 Medical Anthropology
3. 学会等名 Human Ecology I, Tokyo University Medical School Graduate School (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北中淳子
2. 発表標題 認知症という経験に「共感」すること：医療人類学的視点から
3. 学会等名 メンタルケア協会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北中淳子
2. 発表標題 シンポジウム 2 社会は認知症ケアと医療をどのように見てきたのだろうか 人類学の視点から
3. 学会等名 日本認知症ケア学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北中淳子
2. 発表標題 精神科診断の社会的機能：医療人類学の視点から
3. 学会等名 日本精神神経学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北中淳子
2. 発表標題 新健康主義：日本での認知症予防論争
3. 学会等名 メンタルケア協会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北中淳子
2. 発表標題 エビデンスの政治学：当事者研究の最近の動向
3. 学会等名 日本精神神経学会 パラダイムシフト調査班（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北中淳子
2. 発表標題 当事者同意について
3. 学会等名 日本精神神経学会 倫理委員会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北中淳子
2. 発表標題 早期発見時代の認知症臨床
3. 学会等名 メンタルケア協会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北中淳子
2. 発表標題 “東洋的”精神療法？：医療人類学的視点
3. 学会等名 Open Dialogue 研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北中淳子
2. 発表標題 日本における「当事者科学」の可能性：エビデンスの人類学
3. 学会等名 医療政策機構「メンタルヘルス専門家会合」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 北中淳子
2. 発表標題 脳神経科学的共感に向けて：医療人類学の視点から
3. 学会等名 BSAP エリアアドバイザー Speaker's Program (招待講演)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計4件

1. 著者名 Junko Kitanaka, Anne Lovell, Gerald Oppenheimer, et al.	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Rochester University Press	5. 総ページ数 -
3. 書名 Reimagining Psychiatric Epidemiology in a Global Frame: Toward a Social and Conceptual History	

1. 著者名 春日直樹、竹沢尚一郎、森田良成、金谷美和、北中淳子、浜田明範、深海菊絵、兼松芽永、奥野克巳、松田素二、中川理、西真如、久保明教、小川さやか	4. 発行年 2021年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 308
3. 書名 文化人類学のエッセンス	

1. 著者名 加藤忠史編 狩野祐人・北中淳子・山脇成人・神庭重信・大森哲郎・古川壽亮・榊原英輔・久島周・尾崎紀夫・松本光之・久保健一郎・福田正裕・西山潤・河上緒・横山仁史、岡本泰昌・宗田卓史・国里愛彦・片平健太郎その他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 学術書院	5. 総ページ数 192
3. 書名 『精神医学の基盤4 精神医学の科学的基盤』	

1. 著者名 Junko Kitanaka & Stefan Ecks	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Cambridge University Press	5. 総ページ数 -
3. 書名 Cambridge Encyclopedia of Anthropology	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計8件

国際研究集会 The 24th Keio Symposium on Bridging Humanities, Social Sciences and Medicine: Living Worth	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 The 17th Keio Symposium on Bridging Humanities, Social Science and Medicine: Investigating Global Social Medicine	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 医療と人文社会科学の架橋に向けて16 遠隔医療の歴史	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 医療と人文社会科学の架橋に向けて17 コロナ下アメリカにおける遠隔サイコセラピー	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 医療と人文社会科学の架橋に向けて18 : Investigating Global Social Medicine	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 The 13th Keio Symposium on Bridging Humanities, Social Sciences and Medicine: Frontiers of Medical Anthropology and Transcultural Psychiatry	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 The 14th Keio Symposium on Bridging Humanities, Social Sciences and Medicine: The Promise of Technology	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 The 15th Keio Symposium on Bridging Humanities, Social Sciences and Medicine:The Anthropology of Life Course	開催年 2020年～2020年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------